

令和6年度帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業 実施体制（松阪市教育委員会）

【課題】

外国人児童生徒の受入体制については、一定の成果が見られるが、学力・進路保障の面、キャリア形成の面等で課題がある。

【実施事業の概要】

- ・日本語指導、教科指導、学習評価等の実践研究を行う。
- ・児童生徒の母語が分かる支援員（母語スタッフ）を派遣する。
- ・外国人児童生徒受入のための校内体制を整備する。
- ・大学、国際交流協会等の関係機関と連携を図る。

学校、大学、国際交流協会等との連携による
外国人児童生徒の支援体制の構築

【具体的な取組】

拠点校を設置しての実践研究

初期適応支援教室「いっば」による日本語指導・学校生活への適応支援

「特別の教育課程」による個別の指導計画作成・実践研究

JSLカリキュラム（教科指導型日本語指導）の実践研究（公開授業1回／年、センター校教職員研修会等）

就学実態調査によるすべての外国人児童生徒の就学

ICT 機器を活用した効果的な指導の実践研究

外国人児童生徒教育コーディネーターによる指導・助言
日本語指導員の配置

母語スタッフの派遣（学校、「いっば」等）

【取組の成果】

「いっば」の保護者アンケートによる評価（肯定的評価 100%）

小中で作成した個票を高校へつなぎ、小中高の連携が深まった。（作成率 100%）

JSLカリキュラムを活かした授業づくり、ICT の活用、多文化共生教育等の実践の蓄積

小中学校における外国人児童生徒の就学率（100%）

多文化共生の視点に立った学習に取り組む学校の割合（100%）

【成果と今後の課題】

「いっば」教室の開設、「特別の教育課程」の実施、JSL カリキュラムを活かした分かりやすい授業づくりの実践、就学実態調査の実施、母語スタッフの派遣等により、外国人児童生徒等の受入体制整備の充実を図ることができた。センター校が中心となり、外国人児童生徒等の受入体制の整備や支援体制の構築を図ることで、児童生徒が安心して学校生活を送れるようになった。また、センター校で実践研究した成果を分散地域の学校へ広めることができた。高等学校卒業後の進学や就職を見据えた学力保障・進路保障に向け、今後も様々な立場の関係者が連携・協力していく必要がある。「いっば」教室を修了した児童生徒への効果的な学習指導についての実践研究と教材の共有化を図る必要がある。